

# 品行ゼロ

2005(平成17)年7月26日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★★



監督=チョ・グンシク/出演=リュ・スンボム/イム・ウンギョン/コン・ヒョジン/チェ・ウヒョク/キム・グァンイル (エスピーオー配給/2002年韓国映画/97分)

…… 80年代を舞台とした韓国版「学園モノ」「番長モノ」は、基本的にはワイルドなものだが、「鬼のカ克蘭」的な美しい純愛も……？ カツあげを指揮するべき番長(?)のギター教室通いはお笑いだが、音楽ネタはどの国でも男女交際の基本……？ しかし、不似合いな恋にうつつを抜かしていると、女番長からは見放されるうえ、ライバルの台頭を許すことに……。そして、主人公の『カンフー・ハッスル』(04年)ばりの武勇伝がホントかどうかは最後の番長同士の決闘にかかってくることに。その「ケンカ」は意外と現実的なスタイルだったが、その結末は……？ 映画出演2作目となるメガネの美少女には、番長のみならず多くの観客も思わず釘付けとなり、一目惚れ……？

## これは80年代の「番長モノ」!

韓国映画には『セックス イズ ゼロ』(02年)や『マイ・ボス マイ・ヒーロー』(01年)のような学園モノや番長モノが多いが、これは韓国には若手俳優がたくさん育っているせいかも……？ この映画の主人公チュンピル(リュ・スンボム)はムンドク高校という男子高の番長。多分、ホントに強いのだろうが、その伝えられる『カンフー・ハッスル』(04年)ばりの「武勇伝」にはちょっと怪しげな部分も……？

1年留年したため、「先輩、先輩!」と呼ばれ尊敬されている(?)が、実際にやっていることは側近(?)の知恵によるカツあげに毛のはえたような程度のこと……？ こんな主人公が「鬼のカ克蘭」よろしく、何と近く的女子高のメ

ガネ美女に一目ボレ。ふぬけ状態となってしまった。そんな中、他の高校では本格的な武闘派番長のサンマン（キム・グァンイル）が登場し、メキメキと力をつけていた。さて、そこで予想される番長同士の対決は……？

これがこの映画のメインテーマだが、その中には恋あり、笑いあり、そしてガチンコ勝負や音楽までありと盛りだくさん。そしてこの「青春グラフィティ」は、80年代の韓国が舞台。いつものことだが、日本とはかなり異なる教育システムや教師の横暴ぶり（？）などにも注目しながら楽しみたいものだ。

### メガネ美女に一目ボレ……？

こんなチュンピルがメガネ美女に出会ったのは、美容室を営んでいる母親がいる自宅兼お店の中。この美少女ミニ（イム・ウンギョン）は高校生だが、ミス〇〇を目指しているらしい（？）。そして、ガリ勉の優等生のためか強度の近視でメガネを手放せないようだが、メガネをかけていてもかわいいし、それをはずすとさらに美人……。日本ではさしずめ「きれいなお姉さんは好きですか？」のコマーシャルに登場しそうなイメージだが、韓国では1999年SKテレコムTTLイメージガールとして一大センセーションを巻き起こしたとのこと。

母親が髪の設定をしている時、鏡の中でのぞき見たその顔を見て、チュンピルが一目ボレしたのもわからないではないが、やはり番長には女番長のナヨン（コン・ヒョジン）がお似合いというもの。番長稼業と優等生のメガネ美女との淡い初恋を両立させるのはちょっとムリでは……？

### 意外な展開にビックリ……？

もともとこのミニの「お友達」は、ミニと同じギター教室に通う転校生のヨンマン（チェ・ウヒョク）だったが、チュンピルは「将を射んと欲すればまず馬を射よ」とばかり、まずはこのヨンマンと接触して仲良しに……。そのうえ何とチュンピルも、このギター教室に通うことに……。

高校生の年頃では、男より女の方が「その道」にかけてはマセているもの……？ そして、こんなチュンピルからのアプローチに気付いたミニは、意外にもこの風変わりなチュンピルに好意をもった様子。その結果、何とも意外なこと

に、2人はアツアツの関係に……。これを見てビックリしたのは、まず第1に番長活動を応援していたチュンピルの側近たちだった。

## 火花を散らす女同士の闘いは？

ミニが積極的にチュンピルとの恋を発展させていくことにビックリしたのは、さらにチュンピルと並んで女番長を張っていたナヨン。ここは女同士サシで話をつけようと、ミニを呼びつけて、「チュンピルとつき合うのをやめろ！」とすごんだが、ミニも強気。「私はチュンピルが好き！」と逆に宣言して2人が張り合う始末。こういう姿を見ていると、いくら優等生、いくら女番長といっても、所詮女子高生と思うほど単純なものだが、映画として観ている分には楽しいもの……？

ある日、ナヨンはチュンピルに対して「正直に答えてくれ」という前提付きで、「ミニと私とどちらが好きなの？」と聞いたが、こりゃ、最悪の質問……。その答えを聞いたナヨンは、今や恋にうつつを抜かしているチュンピルに見切りをつけ、台頭著しい他校の本格的「武闘派」番長であるサンマンに対してスケ番グループだけで対決を挑んだが……？

## 最後の対決は？

ここまで事態が進んでくれば、チュンピルとしても、いつまでもミニとの恋愛模様にひたっているわけにいかないのは当然。ブランコに乗りながら、「明日のギター演奏会に来てくれるわね」と楽しげに会話を交わし、チュンピルへのプレゼントまで用意していたミニに対し、男番長のチュンピルが切ったタンカは……？

ミニのギター演奏会は成功裡に終わったが、その日チュンピルはミニからプレゼントされた真っ白のシャツを着て、遂にサンマンの元へ。チュンピルの数々の武勇伝は、空を飛んだり、何十人も敵をなぎ倒したりするちょっとインチキっぽいものだったが、多くの生徒たちが見守る中で、現実に関われる番長同士の格闘戦はそんなスマートなものではなく、意外にドロ臭い殴り合いと蹴り合いの連続。したがって当然一発ノックアウトとはならず、一進一退の攻防戦が続いた。

しかし、その結果は……？

## 高校卒業後の番長や女番長そしてミニたちは？

この映画は番長、女番長そしてミニたちが、高校を卒業した後それぞれどんな道を歩んでいるのかを「番外編」(?)として面白く示している。それによると、ミニは白衣を着てある研究室に勤務しているが、これは想定範囲内……？ 意外なのは女番長だったナヨン。彼女はスカウトの目にとまって今や売れっ子モデルとして大活躍。そのため、同級生たちは高校の時仲良くしておけばよかったと後悔しているらしい……。他方、番長チュンピルのその後はあまり知られていないが、生きていることはたしか。さて彼は今、何をやって生計をたてているのだろうか？ それをここで明かすわけにはいかないが、事前にいろいろと想像たくましく考えてみてはいかが？

2005(平成17)年7月27日記

ミニコラム

### 学園モノの日韓対比考察

日本の学園モノの国民的名作は『青い山脈』。したがって、雪村いづみや吉永小百合など時代を代表する女優がその主人公、寺沢新子を演じている。他方、私の中学・高校時代(60年代)の学園モノは舟木一夫の『高校三年生』に代表される健全なものが主流。それは元気で前向きな昭和ニッポンという時代のおかげ……。

それに比べると、『マルチュク青春通り』の韓国題は『マルチュク通り残酷史』。ここからわかるように、韓国では日本のような楽しくおらかな学

園生活とはほど遠いが、その原因は徴兵制度と根強く残る封建的思想……。だからこそ、一方で上昇志向オンリーのガリ勉がおり、他方で落ちこぼれの番長グループがいるわけだ。健全モノよりもハチャ目茶で荒れた学園モノの方がおもしろいのは当然。そんな視点で韓国の学園モノを楽しもう。もっとも『チルソクの夏』のような日韓友好の感動的学園モノも忘れてはいけないが……。

2005(平成17)年10月18日記